Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2007年８月）

発表日：2007年10月５日(金)

～ＤＩ一致指数は５ヵ月連続で50%を上回るが、先行指数が50%割れ～

第一生命経済研究所　経済調査部
担当　主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

景気動向指数

	系列名	2006 8	9	10	11	12	2007 1	2	3	4	5	6	7	8
先行系列	最終需要財在庫率指数(逆サイクル)	－	－	－	－	－	＋	＋	＋	－	0	－	＋	－
	生産財在庫率指数(逆サイクル)	＋	－	＋	－	－	－	－	－	－	＋	＋	＋	＋
	新規求人数(除学卒)	－	－	－	－	－	＋	－	－	－	－	＋	＋	－
	実質機械受注(船舶・電力除く民需)	－	－	＋	－	＋	＋	－	－	－	＋	－	＋	
	新設住宅着工床面積	＋	＋	＋	＋	＋	－	－	－	＋	－	＋	－	－
	耐久消費財出荷指数（前年比）	－	＋	＋	－	－	－	－	－	－	－	＋	－	＋
	消費者態度指数	－	－	－	＋	－	0	－	＋	－	－	－	－	－
	日経商品指数(42種総合)－前年比	－	－	－	－	－	－	－	－	＋	＋	＋	＋	－
	長短金利差	－	－	－	－	－	－	－	－	－	＋	＋	＋	－
	東証株価指数（前年比）	－	－	－	－	－	－	＋	＋	－	－	＋	＋	－
	投資環境指数(製造業)	＋	＋	＋	＋	＋	－	－	－	－	＋	＋		
	中小企業売上げ見通しD.I.	－	－	＋	－	－	＋	＋	＋	－	－	＋	＋	＋
	先行指数	**25.0**	**25.0**	**50.0**	**25.0**	**25.0**	**37.5**	**25.0**	**33.3**	**16.7**	**45.8**	**75.0**	**72.7**	**30.0**
一致系列	生産指数(鉱工業)	＋	＋	＋	＋	＋	－	－	－	＋	－	＋	＋	＋
	生産財出荷指数(鉱工業)	＋	＋	＋	＋	＋	－	－	－	＋	＋	＋	＋	＋
	大口電力使用量	＋	＋	＋	＋	＋	＋	－	＋	＋	＋	－	－	＋
	稼働率指数(製造業)	＋	＋	＋	＋	＋	－	－	－	－	－	－	－	
	所定外労働時間指数(製造業)	－	－	－	＋	＋	＋	＋	－	－	－	＋	＋	＋
	投資財出荷指数(除輸送機械)	＋	－	＋	－	＋	－	＋	－	＋	－	＋	＋	＋
	商業販売額指数(小売業)－前年比	＋	＋	0	－	－	－	＋	－	＋	＋	＋	－	＋
	商業販売額指数(卸売業)－前年比	－	－	＋	－	－	－	－	－	＋	＋	＋	＋	－
	営業利益(全産業)	＋	＋	－	－	－	－	－	－	＋	＋	＋		
	中小企業売上高(製造業)	＋	＋	＋	＋	＋	＋	－	－	＋	＋	＋	＋	＋
	有効求人倍率(除学卒)	＋	＋	－	－	－	－	－	－	－	＋	＋	＋	0
	一致指数	**81.8**	**72.7**	**68.2**	**54.5**	**63.6**	**27.3**	**27.3**	**9.1**	**72.7**	**63.6**	**81.8**	**70.0**	**83.3**
遅行系列	第３次産業活動指数（対事業所サービス業）	0	＋	＋	＋	0	－	＋	－	＋	＋	＋	＋	－
	常用雇用指数(製造業)　(前年同月比)	＋	＋	－	－	－	0	－	－	＋	＋	＋	－	－
	実質法人企業設備投資(全産業)	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	－	－	－		
	家計消費支出(全国勤労者世帯)(前年同月比)	－	－	－	＋	＋	＋	－	＋	－	＋	－	＋	＋
	法人税収入	＋	＋	－	＋	＋	＋	－	＋	－	＋	－	－	－
	完全失業率(逆サイクル)	－	＋	－	＋	＋	＋	－	＋	＋	＋	＋	＋	－
	遅行指数	**58.3**	**83.3**	**33.3**	**83.3**	**75.0**	**75.0**	**33.3**	**66.7**	**50.0**	**83.3**	**50.0**	**60.0**	**25.0**

（出所）内閣府「景気動向指数」
（注）１．3ヵ月前の値と比較して改善は＋、横ばいは０、悪化は－として表示。

○　ＤＩ一致指数は５ヵ月連続の 50%超え

本日公表された８月の景気動向指数（速報）では、ＤＩ先行指数が 30.0%、ＤＩ一致指数は 83.3%、ＤＩ遅行指数は 25.0%となった。また、ＣＩ先行指数は前月比▲1.9%の 100.6、ＣＩ一致指数は同＋1.3%の 114.6 となっている。

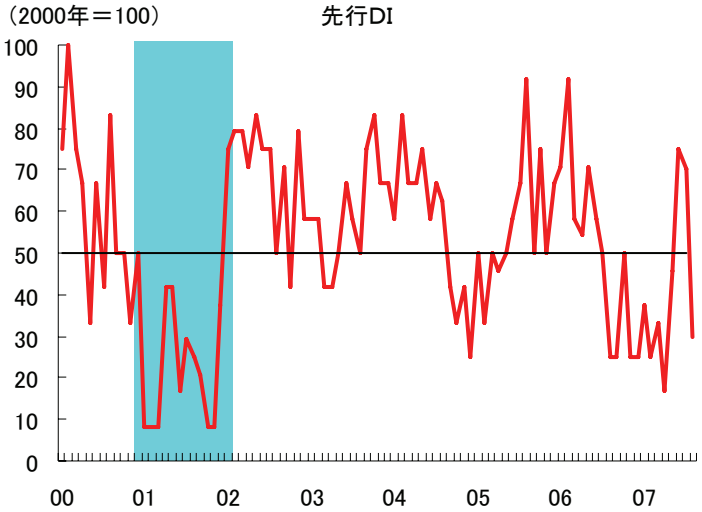
ＤＩ一致指数は５ヵ月連続で 50%を上回った。今年１月から３月にかけてＤＩ一致指数は３ヵ月連続で 50%割れとなっていたが、足元では再び 50%超え基調が定着しつつある。輸出の持ち直しやＩＴ部門の在庫調整終了などを背景として生産活動が活発化しつつあることが影響している。９月のＤＩ一致指数についても、やや微妙なところはあるが 50%を上回る可能性が高そうだ。当面、50%超えが続くだろう。2007 年入

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

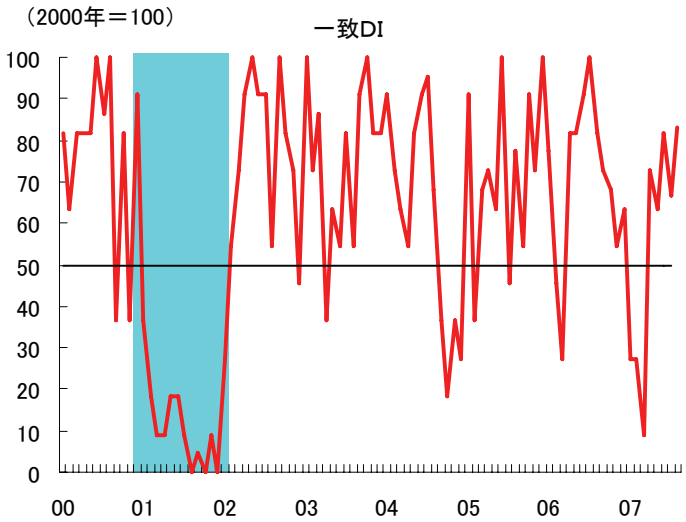
り以降伸びを鈍化させていたＣＩ一致指数が足元で上昇ペースを速め、水準を高めていることも良いニュースである。

一方、ＤＩ先行指数は金融関連指標を中心として３ヵ月ぶりに 50%を下回った。また、翌９月についても、速報段階の 10 系列中、長短金利差、東証株価指数、中小企業売上げ見通しD.I.）すべてが３ヵ月前比悪化していることから、50%割れとなる可能性が高い。ＤＩ先行指数は６、７月に２ヵ月連続で 50%を上回り、改善基調に転じたかとも思われたが、８、９月には再び 50%割れに逆戻りすることになる。若干気がかりな動きである。

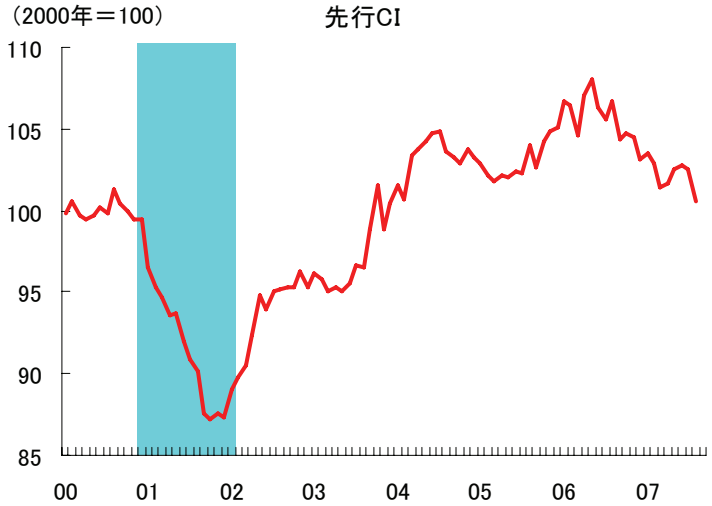
筆者は、今後も景気回復基調が持続していくと考えているが、米国経済の先行き不透明感が強まっていることに加え、株価の低迷やガソリン・食料品価格の上昇等が企業や家計のマインドに悪影響を与える可能性があることなど、景気下振れリスクが高まっていることは事実である。こうした点については今後も十分注意していく必要がある。



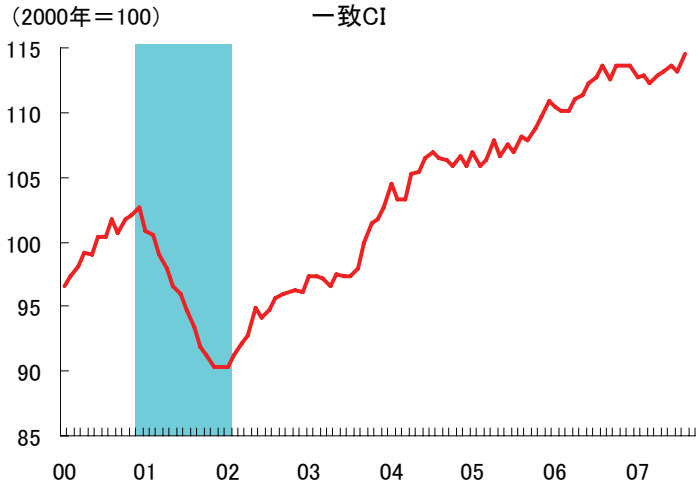
（出所）内閣府「景気動向指数」



（出所）内閣府「景気動向指数」



（出所）内閣府「景気動向指数」



（出所）内閣府「景気動向指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。